第74号
2026.9

安心のオンライン医療通訳

# medi-way 医療通訳だより

## Medi-Way 医療通訳者紹介　Vol.37　　英語担当　永井さん

### ◆なぜ医療通訳者になった？

親しい通訳者から医療通訳の仕事について詳しく話を聞いたことが、興味を持つきっかけでした。AI通訳の利用が広がる中でも、自分が患者なら、細かなニュアンスをくみ取り、気持ちに寄り添ってくれる人に通訳してほしいと思います。人だからこそできる通訳に魅力と可能性を感じ、医療通訳者に挑戦することを決めました。

### ◆今まで医療通訳に携わってきて一番嬉しかったことは？

医師や患者様とは一期一会となることが多いのですが、同じ患者様を複数回担当する機会もあります。治療を重ねる中で症状が改善し、医師と患者様がともに笑顔になる瞬間に立ち会えることは、大きな喜びです。通訳の現場では決して明るい場面ばかりではないからこそ、そこで見られる笑顔はとても貴重で、心に残ります。

### ◆より良い通訳をするために心掛けていることは？

医療通訳は幅広い分野に対応する必要があるだけでなく、オンライン通訳ではコールを受けるまで依頼内容が分かりません。そのため、日頃からさまざまな医療分野の用語に触れ、知識を広げ、あらゆる場面に対応できるよう努めています。実際の通訳では、内容を正確に伝えることはもちろん、適度なスピード感を保ちながら、医師と患者様の双方にとって聞き取りやすい、明瞭な話し方を心掛けています。




## 一杯のコーヒーから見えてくる文化



通訳士同士のコーヒーについての何気ない雑談。
様々な国出身の通訳士たちがいると、「えっ、そんなに違うの？」と驚くことばかりで、身近な飲み物からも文化の違いを知ることになりました。

アルゼンチンでは、たっぷりの温かいミルクとエスプレッソをほんの少しだけ加えた、「ラ・ラグリマ」という飲み方があります。「ラ・ラグリマ」＝「涙」という名前の通り、コーヒーという名の涙が一滴、ミルクに落ちたような一杯です。

韓国では、鍋や汁物と同様、コーヒーも「熱々」が好まれます。オーストラリアに住んでいた韓国人通訳士はいつも“extra hot”と注文していたそうです。

中国では、「冷たい飲み物は体を冷やす」という考えから、アイスコーヒーはあまり一般的ではありませんでしたが、最近は少し変化もあるようです。

ペルーでも外国のカフェ文化が広がり、様々な飲み方が楽しまれるようになったようです。

医療通訳士として海外の方と接する時「あたり前」は国によって違うことを実感します。医療現場でも、食事や健康に対する考え方は文化によっても異なります。一杯のコーヒーでも文化の違いに気づく。そんな小さな「違いへの気づき」が相手を理解する一歩となるのかもしれません。

## 今月のトピックス

### スマホと子育て 世界の文化から考えること




「スマホを置きなさい。」
一度は子どもにかけたことのあるセリフではないでしょうか。
子どものスマホ利用は世界共通の問題であり、長時間の利用による睡眠不足や学習への影響、SNSでのいじめや不安感などが指摘されています。一方、スマホを使って外国語を学んだり、世界の歴史や文化を調べたりと、子どもの世界を広げてくれます。

海外では、社会全体で子どもを守る動きが広がっています。オーストラリアは16歳未満のSNS利用を制限する法律を導入し、フランスやオランダでも学校でのスマホ利用を制限するなどの取り組みが進んでいます。医療通訳士として外国の方と接すると、国や文化によって子育ての考え方も違うことがわかります。それは「自由に育てたい」、「危険から守ることが大切」、とさまざま。

では、親はどう管理するべきなのでしょうか。大切なのは、ただ「使わせない」ことではなく、「なぜルールが必要なのか」「どう使えばいいのか」を子どもと考えることだと感じます。

違いはあっても、子どもの健やかな成長を願う気持ちは世界共通。
そんな共通点を見つけられるのも、私たちの仕事の面白さです。

株式会社 東和エンジニアリング
東和通訳センター　TEL: 06-6292-8568
□東和通訳センター　〒530-0015 大阪府大阪市北区中崎西4-2-27
e-mail：tic@towaeng.co.jp